

# 「その行動、正しい？」

令和4年度 第44回 少年の主張沖縄県大会 優良賞

那覇市立 上山中学校 3年  
棚原 なつき (たなはら なつき)

あなたは、人の心を覗いたことがありますか？といっても、そんなことは不可能なので誰にもできないと思います。そこで、今日は私の話を聞いて下さい。

とある中学校のお話しです。彼女の心の中を覗きながら、皆さんにも考えてほしいです。彼女は自分の本音や気持ちをみんなの前で出すことができません。授業で懸命に発表をすれば、裏でひどいことを言われるとわかっているからです。時に人は嫉妬や不満を「悪口」という形で誰かにぶつけようとします。彼女にも日々、そうした悪意が投げつけられていました。「原因はなんだろう？」「私が存在していることが原因？」「相手には私が目障りなのか……」いくら考えても答えは見つかりません。容赦なく続くいじめは次第に彼女の心を、闇の中に引きずり込んでいきます。なぜいじめられているかもわからず、苦しい思いをする。逃げ道なんてありません。「あの子も裏では悪口を言っているんじゃないか」「あなただけに……と話しても言いふらされるんじゃないか」恐怖心は彼女を疑心暗鬼にしていきます。やがて、彼女は「見えない仮面」を付けるようになりました。悲しくても笑顔を絶やさず、思ったことも言わず、誰にとっても良い子であろうとしました。そして一言、「大丈夫。」彼女はそうつぶやきます。

この話を聞いて、皆さんはどう思いましたか？彼女はいじめによる日々の憂鬱に、自分の心を消すことで必死に耐えているのです。「自分」という存在は個性であり、無くせないもの。ましてや他人の為に消して良いものではありません。それでも、いじめられている人は「これ以上傷つきたくない」その一心でまた仮面をかぶります。植え付けられた恐怖心は簡単に消えることはなく、一生苦しい思いを背負うことにもなります。

いじめは、年齢を問わずいろいろな場面で起こります。未成年のうちには「いじめ」という言葉で済んだとしても、大人になれば罪に問われます。学校でも、いじめに関するアンケートは年々増え、以前より対策も取られるようになってきました。それでもまだ、いじめは起きています。今後、いじめをなくすために、皆さんにも考えてほしいのです。冗談のつもりで、遊び半分で、思ったことを加減もせず相手に放ってはいませんか？その悪口を聞いて、根拠も理由もなく、誰かを嫌ってはいませんか？悲しいことに直接かかわったことがなくても、友だちが嫌っている相手を、一緒に攻撃してしまう人もいます。

いじめが、今後起きないようにするためには、一人一人の意識が変わらないといけません。いじめが悪いことだとわかっているにもかかわらず、**心の弱さ**ゆえに無意識に人を傷つけてしまう人もいます。難しいけれど、言葉にする前に一度考える癖をつけてください。

最後に、「いじめを見ているあなた」へ。どうか他人事だと思わず行動を起こしてください。いじめをする人よりもずっと強くて、勇気があってかっこいいことですよ。

「誰かをいじめてしまっているあなた」へ。「悪口」は言ったあなたの評価も下げます。人を傷つけて得られる快感は、罪悪感を鈍らせ、やがて習慣化し、考えることを放棄させます。麻薬に似た依存性があります。あなたの一言で、一生苦しむ人がいます。どうかそのことを忘れないでください。

みなさんに問います。「一時の快楽は、一生の苦しみを伴う。一時の勇気は、一生続く輝きである。」行動一つで人の心は変わります。あなたのその行動、本当に正しいですか？